

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	東邦プロジェクトB		
担当者(Instructors)	谷口 正博, 大平 里香	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

<b>■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)</b>			
<p>本授業ではプロジェクト型授業として、地域イベント活動と中心となるメディアコンテンツ制作を、学内外との連携・共同作業によって実施します。実践的な活動と経験を通して各種分野の学習を行います。フライヤー、冊子、WEB、ビデオなど各種コンテンツの実制作を通して、社会的な意義のある活動に接続する方法を考察、実践します。各種地域連携、産学連携事業として、公共施設、商業施設などでの夜間土日祝日、夏期冬期休暇中の時間外活動があります。</p>			

<b>■ 授業形態・授業の方法 (Class form)</b>	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	調査研究、実制作を伴う演習形式。 既存イベント現場のフィールドワーク、グループワークによる調査、制作を行います。 決められた曜日時間以外、学外での活動が発生します。

<b>■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)</b>			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	学びのポイント、取組姿勢、目的と概要を確認。受講生の自己紹介。	<input type="checkbox"/>
第2回	事例紹介	記録情報を参照し、先行類似事例を考察	<input type="checkbox"/>
第3回	テーマ設定、コンテンツメイキング発想法	先行類似事例の分析から魅力を判別し、柔軟なアイデア展開について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第4回	テーマに関するディスカッション	メンバー間でのアイデア競合	<input type="checkbox"/>
第5回	テーマの仮設定 フィールドワーク準備	テーマプレゼンテーション テーマに沿ったフィールドワークのための日程調整	<input type="checkbox"/>
第6回	フィールドワーク①	既存企画の事例調査 インタビュー等の調査準備	<input type="checkbox"/>
第7回	フィールドワーク②	既存企画の事例調査 インタビュー等の調査準備	<input type="checkbox"/>
第8回	フィールドワーク③	既存企画の事例調査 インタビュー等の実践	<input type="checkbox"/>
第9回	フィールドワーク④	フィールドワークの結果、調査対象を定め、より詳細なインタビューを実施	<input type="checkbox"/>
第10回	フィールドワーク成果の編集 記録コンテンツ制作①	フィールドワークの結果、調査対象を定め、インタビューを含む記録情報を編集	<input type="checkbox"/>
第11回	フィールドワーク成果の編集 記録コンテンツ制作②	フィールドワークの結果、調査対象を定め、インタビューを含む記録情報を編集	<input type="checkbox"/>
第12回	フィールドワーク成果の編集 記録コンテンツ制作③	記録コンテンツ制作 調査情報から価値ある情報への編集	<input type="checkbox"/>
第13回	フィールドワーク成果の編集 記録コンテンツ制作④	記録コンテンツ制作 社会的意義の検証	<input type="checkbox"/>
第14回	フィールドワーク成果の編集 記録コンテンツ制作⑤	記録コンテンツ制作 社会的意義の検証	<input type="checkbox"/>
第15回	成果報告会	フィールドワーク成果としての記録コンテンツ発表プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>

<b>■ 授業時間外学習 (予習・復習) の内容 (Preparation/review details)</b>	
授業時間外のフィールドワーク、現調、学内外関係者とのミーティング、プレゼンテーションに備え、各回4時間程度の自主作業が必要とな	

ります。 時間外活動が多く発生するため、スケジュール管理が求められます。

#### ■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

プロジェクトは随時進行状況が変化します。担当教員と履修メンバーはオンラインで資料を共有し頻繁な連絡を可能とします。 また、全員のコミュニケーションを密にしてプロジェクトの進行をすることが、より実践的な業務遂行の学習機会となります。

#### ■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2019全学共通DP3	主体的に人や組織と協働して新たな価値創造に向けた活動を実践することができる。

#### ■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			40%	60%

#### 授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

企画設定とその実施過程、実現したクオリティなどを評価します

#### ■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じデータ配布します	
2		
3		
4		
5		

#### ■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		